

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家(ひまわり)		
所在地	小樽市桂岡町11-13		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000259-00&ServiceCd=320
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域密着型サービスの意義を理解し、入居されている方が認知に障害を持っていても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標にしています。地域の中で生活をされてきた方々が、地域や家族と繋がり、それまで過ごしてきた環境で日常生活を続けられる様支援いたします。里の家で取り組んでおりました外出や地域の方々との交流は新型コロナ感染防止の観点から縮小しております。しかしながら今まで培ってきた繋がりは崩れることなく地域の方々からの積極的なアクションがあります。ホーム側でもゲストハウスの利用や畑で作物を育て一緒に収穫し、料理していただくなど工夫した取り組みを行っております。ご家族様とはリモート面会をおこない、毎月入居者様の生活の様子を電話伝え家族様と一緒に介護を考えるようにしております。職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしている事を意識し、ゆっくりと関り、居心地の良い暮らしができる様支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年12月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人に合わせたケアを提供する為に常に事業所理念を職員間で共有しながら、その人らしく生活して頂けるよう実践を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ禍の為、以前行っていた地域との繋がりは限定されたものとなっているが、地域の有志が手作りのウエス等を届けて下さるような形やハロウィンでの交流は続けられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ホームで夏祭り等を開催してご家族や地域の方も訪れて下さっていたが、新型コロナにより行事も縮小及び中止になっている事が多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では直近で行われた避難訓練や行事等の様子を写真やプロジェクターで紹介しながら小樽市、包括、家族に手紙を送り、里の家に対する意見を伺い、会議の中で報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長を主導として関係機関へ連絡又は市役所等にも足を運びホームの情報を伝えている。又、、運営推進会議についてはコロナ禍の為、文章による参加を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部及び外部研修への積極的参加により身体拘束や虐待防止について学び教養を深める事で、その大切さにおいて正しく理解しながら入居者と関わろう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ZOOMIによる研修にて、職員間で悩み等が話しやすい環境作りに取り組みメンタルケアを行う事で職員のストレス等によって虐待に繋がる事のないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ZOOM研修等にて必要最低限度の知識を習得し、施設職員全体で情報共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書に基づいた説明を施設長が行っており、入居者・ご家族の理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナによる面会制限の為、入居者のご家族には毎月定期的に入居者様の普段の用す等の情報報告を各ご家族様に電話にて行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議及び朝の申し送りで随時、管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けており、又、必要に応じて本部との連携を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間等を全員で確実に取れるように、都度工夫しながら、より良い労働環境の整備に努めている。又、積極的に福祉用具を取り入れる事により入居者、職員双方が身体的負担を軽減する事にも出来るだけ配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護基礎研修等の講義を受けて、各職員が自信を持って積極的に介護業務に従事できるような体制を取っている。内部研修では職員の理解度に応じた研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流においては新型コロナ禍の為、ZOOMによる意見交換等に参加している。相互訪問については自粛を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも安心して生活に馴染んで頂けるよう、本人が現在一番、困っている事、不安に思っている事は何かを、的確にニーズとしてとらえられるよう努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく、ご家族においても施設に預けるにあたっての不安や要望等をしっかり聞き入れて、少しずつ信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず早急に必要な支援は何かを、本人・家族の意向や本人の身体状況等、様々な観点から見極める事で、より必要なサービスの提供が行えるよう実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を一人の人間として敬意を持って関わりながら、お互いに支え合って毎日を過ごす事が行えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有を密に行う為に毎月定期的にご家族へ電話連絡等を行う事で、信頼関係を少しでも深めながら、家族の視点に立っても考えて関わりを持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において面会制限がある中でも、リモート面会等を取り入れる事で、今まで通りに少しでも馴染みの人と関係が途切れないよう努めている。看取りの時はご家族様が後悔しないように話し合いながら関わっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	都度、職員が必要時に介入を行う事で、少しでも入居者同士がスムーズにコミュニケーションが取れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が数年経っても顔を出して下さる事もあり、その後フォローも行いながら、その親族等や知り合いの入居相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人及びご家族と情報共有しながら施設の生活における意向及び希望を伺い、的確に汲み取る事が行えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生い立ち等を理解しながら、その人の個性を把握し、その人に合わせたサービスの提供を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関係職員間での情報共有にて、日々、入居者の変化を見逃さず、異常時には迅速に対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等により、ユニット全職員の意見を取り入れながら、入居者が最優先で必要としているケアは何なのかを、様々な視点から検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ分かりやすく、具体的な内容で記録する事により、常に職員間で情報共有が密に行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の既往や性格、その他の生活背景等を考慮して、広い視点から本人や家族のニーズを汲み取り、柔軟な対応にて個別のサービス提供が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナによりボランティアの介入する行事等が減少したが、感染予防に配慮しながら、都度ボランティアによる余興等を入れる取り組みを出来る限りで行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一として、往診医をはじめとして、必要時には専門医へ引き継いで頂く事で、医療連携も図りながら受診をして頂けるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の入居者の異変を察知にて職員間で情報共有にて、密に訪問看護師等に伝える事で迅速に受診や看護を受けられるよう支援が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては施設長が中心となり、病院関係者とのやり取りや情報交換・関係づくりにも努めており、出来る限りで職員も機会を見てご本人に面会するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を把握して、往診医からの助言を受けながら、本人及びご家族の意向をくみ取り、事業所のできる事の説明を行った上で終末期に向けた方針の共有を行えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームで定めている緊急マニュアルをもとに管理者や往診医等へ迅速に連絡を繋げられるよう体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナにより地域住民の参加は自粛しているが、毎年定期的に主に火災を想定した避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の大先輩として敬い、声掛けの際には言葉遣いに配慮したり、排泄時等においても部屋のドアやその場を離れる時にタオルを掛ける等の配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が難しい入居者に際しては二者択一にして簡潔にしたり、筆談を用いる等、できるだけ自身の想いを伝えて頂けるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の自己満足や無理強いする事がないように、本人のペースを大事にして出来る限り自由に生活して頂けるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや拘りの服を職員が汲み取り、選択して頂き、着衣に乱れがある際はさり気なく整えさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をゆっくり楽しんで頂きながら、片付け等ができる入居者については、無理のない範囲でお手伝いを頂き、協力を仰いでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者が安心して安全に食事・水分摂取をして頂けるよう、日々摂取状況に留意しながら都度、食事形態等を変更する事により、確実に栄養摂取や水分確保を行って頂けるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下状態等が悪く、うがいが困難の入居者においてはスポンジブラシを使用し残渣物を取り除く等、入居者の状況に見ながら、義歯の管理等も含めて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら、少しでも負担なく定期的に排泄が行えるよう支援し、身体状態に合わせて出来るだけトイレでの排泄を行って頂けるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握しながら、必要時に往診医に相談する事で下剤調整を行い、スムーズな排泄を促されるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある入居者においても、必要に応じて対応職員を変えたり、時間を開けて声掛けする等の対応により、少しでも気分良く入浴して頂けるよう対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の入眠状況(日中の傾眠状況等も含む)を把握しながら、日中の活動時間を増やしたり、必要時は往診医へ相談にて眠剤等の適切な処方にて、より安心して安眠して頂けるよう関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に合わせて、必要時には薬剤師に相談しながら錠剤を粉砕して内服して頂く等、しっかりと確実に内服して頂ける方法を都度、検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活背景等をもとに、入居者の負担にならない範囲で家事手伝いや軽作業等の依頼を行う事で、少しでも役割も持ってもらったり生き甲斐を感じて頂けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナにより以前よりも外出頻度は減っているが、紅葉等を見にドライブにて車の窓から景色を見て頂く事で、感染予防にも配慮しながら、少しでも外の空気や四季の変化を感じて頂けるよう取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知機能の低下により、大半の入居者が職員や家族が代行する事により買い物等を行っているが、都度、個人それぞれの希望を汲み取り不安なく生活して頂けるよう支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナによる面会制限がある中ではあるが、タブレットを使用してリモートにて顔を見ながらお話しして頂いたり、職員も入居者様の近況報告を月に一度行うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やトイレには分かりやすく名前や目印を付けており、蛍光灯は暖色系を使うよう心掛けている。又、職員の声やリビングのテレビの音量にも不安等をあたえないよう配慮を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、個々の生活リズムに合わせて、好きなDVDを観て頂いたり、ゆっくりと寛がりたい方はソファで自由に休んで頂いたり、又、必要に応じて職員が介入する事で入居者同士のコミュニケーションの円滑化を図る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも安心して穏やかに過ごして頂けるよう、以前より愛用されていた人形や家族写真をお持ち頂いたり、TVが好きな方にはおいては居室で本人の希望のチャンネルをかけて楽しんで頂く等の対応を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席やテーブルを個々の入居者の身体に合わせて設定し、少しでも食事がしやすい姿勢で食べて頂けるよう配慮する等、常に入居者の目線に立ちより良い環境作り心掛けている。		